

収蔵資料の紹介③ オヒキコウモリ



このコウモリは、道ばたに死んでいたのを、向田小学校の当時5年生だった鈴木君が見つけたものです。鈴木君の担任の一寸木肇先生が調べたところ、オヒキコウモリという日本ではたいへん珍しい種類とわかり、資料として平塚市博物館で保存させていただくことになりました。

オヒキコウモリは、翼を広げると、40cm近い、かなり大きなコウモリで、尾の先が、後足と尾の間の膜より、長くつき出しているという特徴があります。中国に分布する種類で、日本ではまだ10回くらいしか見つかったことがありません。発

見場所は北海道、熊本、三重など全国にわたっており定期的に日本にやってくるのか、偶然飛んできただけなのかもよくわかっていません。鳥で言えばアマツバメのように高速で飛ぶことができるそうですから、実際にはかなりの個体が日本の上空を飛んでいるのかも知れません。コウモリは、哺乳類の中でも、まだまだ研究の進んでいないグループなのです。

博物館ではこのオヒキコウモリをはく製標本にするとともに、コウモリの分類に重要な頭骨を取り出して保存しています。

オヒキコウモリ

学名: *Tadarida insignis* (Blyth)

産地: 南足柄市向田

発見年月日: 1984年1月11日

発見者: 鈴木雅人(南足柄市立向田小学校5年)

☆寄贈品コーナー

「珍しい動物たち」

8月1日～9月22日

オヒキコウモリのほか、ハクビシン、タカアシガニ、カブトガニ、リュウグウノヒメなど最近、博物館の入手した動物の標本を展示します。

※※8月の行事※※

★☆行事案内☆★

1	水	プラネタリウム、水彩教室	「特別公開」
2	木	プラネタリウム、水彩教室	
3	金	水彩教室、星を見る会	
4	土	プラネタリウム、古文書講読会	
5	日	プラネタリウム、地層観察会	
6	月	(休館日)	
7	火	サマーセミナーガイダンス	
8	水	プラネタリウム	
9	木	プラネタリウム、デッサン教室	
10	金	体験学習「麦から細工」、デッサン教室	
11	土	プラネタリウム、石仏を調べる会	
12	日	プラネタリウム	
13	月	(休館日)	
14	火	自然観察入門講座「貝化石を調べよう」	
15	水	プラネタリウム、「貝化石を調べよう」	
16	木	プラネタリウム	
17	金	「貝化石を調べよう」	
18	土	プラネタリウム、古文書講読会 石仏を調べる会	
19	日	プラネタリウム、地層観察会	
20	月	(休館日)	
21	火	サマーセミナー(～23日)	
22	水	プラネタリウム	
23	木	プラネタリウム	
24	金	自由研究相談会	
25	土	プラネタリウム、	
26	日	プラネタリウム	
27	月	(休館日)	
28	火	星を見る会	
29	水	プラネタリウム	
30	木	プラネタリウム	
31	金	(休館日)	

●星を見る会「夏の星座と惑星」

宵の空に残る夏の星座と、その中にいる惑星たちを、博物館の望遠鏡で観察します。

日時 8月28日(火)18時～20時

場所 博物館科学教室

参加自由、当日、科学教室にお集まり下さい。

●自然観察会「高松山の自然を訪ねて」

初秋の高松山に登り、付近の地質や動植物を観察します。

日時 9月2日(日)8時～16時

(雨天中止)

場所 山北町高松山付近

申し込み 8月25日までに、往復はがきで博物館まで。(多数の場合は抽選により30名までといたします。)

●土曜観察会「自然の新聞を作ろう」

9月22日(土)休耕田の観察(旭)

10月13日(土)秋の照葉樹林(高麗山)

10月27日(土)新聞づくり(博物館)

いずれも、14時～17時

申し込み 参加希望の方に日程表をお送りします。60円切手を同封し、博物館までお申し込み下さい。

なお、「自然の新聞」は6号まで発行されており、最新号を博物館の受付で配付中です。

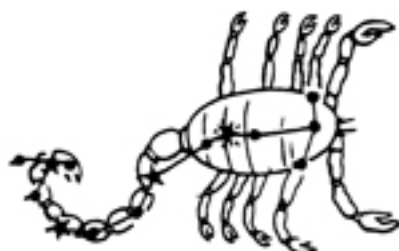
●体験学習「わらぞうり」づくり

わらを使ってゾウリをつくってみましょう

日時 9月9日(日)10時～15時

場所 博物館科学教室

申し込み 9月1日までに、往復はがきで博物館まで。(多数の場合は抽選により30名までといたします。)



● 夏期特別展

「神奈川の化石」

—よみがえったナウマン象—

昨年、市内吉沢などで発掘された、ナウマン象化石や、その他のセキツイ動物化石等、約400種、1700点を展示しています。これらの化石が、遠い過去の生物や、地理の様子を、私たちに教えてくれます。

(博物館特別展示室にて、8月30日まで)



● 展示品についてのお知らせ

(二階展示室619「焼物の道—古代の陶器—」の展示品が変わりました。)

近年市内の各地で発掘調査が行なわれ、多くの成果が上がっています。中でもかなりの緑釉陶器が出土し、古代平塚の歴史をひも解く上で貴重な資料となっています。各発掘調査団のご好意により、資料を借用し、上記のコーナーに展示いたしました。このようなまとまった資料を一度に見られる機会はめったにありませんので、ぜひゆっくりとご覧下さい。

● 夏休み中のプラネタリウム

「水中都市」

○ 投影開始時刻

	水曜日	木曜日	土曜日	日曜日
団体	11:00	11:00	11:00	
一般	14:00	14:00	14:00 15:30	11:00 14:00

一般向け観覧券は、当日の朝9時より一階受付で発売します。また、団体投影で空席がある場合は、空席分を発売します。

平塚の年中行事

(次ページ参照)



大山灯籠

平塚の年中行事

8 大山灯籠

8月はお盆の月で、平塚でもこれにちなんだ特色ある民俗がいくつかあります。今回はこれらの中から大山灯籠を紹介しましょう。

大山灯籠というのは、その名が示しているように大山信仰と結びついたもので、7月下旬から8月にかけてムラの辻々に立てられる灯籠のことです。現在では、これを立てるムラは次第に少なくなっていますが、それでもこの時期に市内を歩くといくつかの大山灯籠をみることができます。

市内で今でも大山灯籠を立てているのは、豊田宮下、下島、上吉沢などです。豊田宮下では、町内の3か所にこの灯籠（木製）を立てています。立てる場所は決ったところで、いずれも三又路など、道の辻です。3か所というのは、宮下というムラが3つの組に分かれ、1組に1茎ずつということです。各組では7月26日になると、しまっであった灯籠を出して辻に立て、8月15日までの間、毎晩、中に灯明をともししています。灯明をともし役は各家が順番で行うことになっており、番帳（順を記した帳面）がまわってくるとその日の当番ということになるといわれています。8月15日に灯籠を片付けるのは、この日の当番に当たった家で、灯籠は翌年までその家に保管されます。

下島でも灯籠の点灯などは同じように順番に行われています。ここでは、かつては四ツ家、西庭、上庭、下庭という4つの町内で、それぞれ1茎ずつ立てていたのですが、現在、見ることができるのは四ツ家だけとなっています。

上吉沢で大山灯籠を立てているのは、飛谷津（とびやつ）や台（だい）、山の神などです。いずれも道端や道の辻で、台では7月28日に立て、毎晩各家が順番にローソクを点しに行き、8月28日に灯籠ケースといって、灯籠を片付けています。山の神でも7月28日に灯籠を立て、順番を記した木札がまわってくると灯を入れに行く当番

ということで、これを8月いっぱい続けます。

現在でも大山灯籠を立てている例をあげると、以上のようになりますが、この他にも市内の各地区で古老の話を聞くと、たいていの所で、昔は大山灯籠を立てたといわれており、かつては平塚ではごく一般的に行われていたことがわかります。

さて、この灯籠と大山との関係は、大山灯籠という名称の他、2つの点からうかがうことができます。1つは、灯籠の灯袋に書かれている字句をみると、たとえば写真（上吉沢の台）の灯籠には「御神燈」「阿降神神、不動明王」「部落安全、五穀豊穰」などと記されています。この灯袋は毎年、紙を貼りかえるもので、「阿降神社、不動明王」（阿降は雨降、または阿夫利の間違い）と書かれることから、これが大山へ献ずる灯籠であるのがわかります。大山へ行って灯明をあげる代りに、ムラ内に灯籠を立て、それに灯を点してムラの安全や五穀豊穰を祈念するわけです。もう1つの大山との結びつきは、この灯籠を立てる期間についてです。大山への登拝は、よく知られているように7月27日から8月17日までの夏山といわれる期間がもっとも盛んです。江戸時代末に編さんされた『新編相模国風土記稿』を見ると、旧暦6月27日から7月17日までの間だけ山頂の石尊社への登拝が許され、6月27日から月末までが初山、7月1日から7日までが七日山、8日から12日までが間（あい）の山、13日から17日までが盆山（ぼんやま）と記されています。つまり、先にあげた各ムラの灯籠を立てる期間は大山の夏山にほぼ近いことがわかります。

大山灯籠はこのように大山信仰と深いつながりをもって立てられているのですが、この灯籠の型式は石灯籠の常夜灯のもとの型を一方では伝えているともいえます。（学芸員 小川直之）